

Economic Monitor

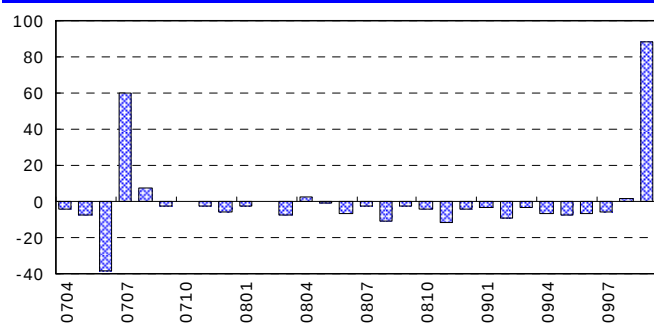
たばこ大幅値上げの影響

10月1日からたばこ税が一本当たり3.5円、一箱当たり70円引き上げられた。加えて、需要減少を補うためのメーカーによる値上げもあり、一箱当たり110～130円程度の価格上昇になっている。そうした値上げを控え、9月には大規模な駆け込み需要が生じた。日本たばこ協会によると、9月の販売数量は前年比88.0%と8月の1.9%に続き、2ヶ月連続で前年実績を上回った。7月までは大幅な前年割れが続いており、駆け込み需要の大きさが窺われる。

喫煙率の低下に伴い、たばこ販売は減少がつづいている。そのため、7月の前年比▲5.7%を8～9月に当てはめてベースの販売数量とすると、7～9月期の実際販売数量はベースの1.32倍に達した。つまり、ほぼ一ヶ月分の駆け込み需要が生じたことになる。これはJT副社長がマスコミに対して駆け込み需要は8～9月合計で1ヶ月分程度と述べたことにも符合している。産業連関表によるとタバコ消費は家計消費の1%強を占めるため、32%のたばこ消費増加は個人消費を0.3%Pt程度押し上げることになる。一方、前回や前々回の税率引き上げを参考にすると、駆け込み需要の反動減により、翌四半期（今回は10～12月期）に倍程度の押し下げ寄与が生じる。従って、7～9月期の個人消費は0.3%Pt程度押し上げられ、逆に10～12月期は0.6%Pt程度押し下げられる見込みである。

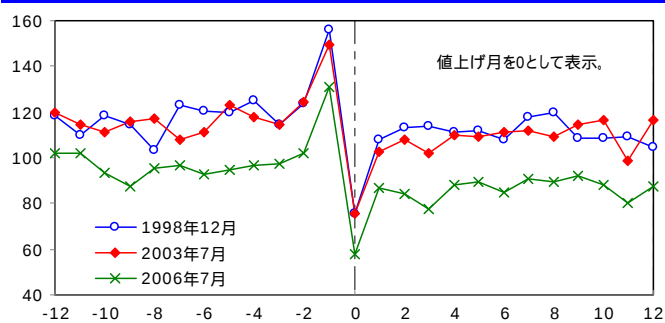
なお、過去の出荷データでは、駆け込み需要の反動減は1四半期で収束し、次の四半期にはリバウンドが生じている。それに従えば、2011年1～3月期には個人消費に対して0.1～0.2%Pt程度の押し上げ寄与が生じる可能性がある。しかし、今回の値上げ幅は、一箱当たり10～30円程度だった過去と異なり、100円超と極めて大きい。そのため、禁煙に踏み切る消費者が多く、たばこ消費は水準を大きく切り下げ、1～3月期のリバウンドが小幅に留まる可能性もある。ちなみに過去3回の値上げを見ると販売数量の水準は値上げの前後で4～8%程度低下している（駆け込み需要とその反動を控除するために、「引き上げの4～12ヶ月前の9ヶ月間」と「引き上げから4～12ヶ月後の9ヶ月間」を比較した）。

たばこ販売数量の推移(前年比、%)



(出所) 社団法人日本たばこ協会

たばこ出荷の推移(2005年=100、季調値)



(出所) 経済産業省